

農村中学生の生活意識

岡村敏弘（秋田県厚生連由利組合総合病院小児科）

私共は、農村の都市化、近代化が農山村小児の生活環境を根底より変革した事実を指摘し、その影響による小児心身の発育、発達に対する歪みについて調査研究をしてきました。今回私共は現代小児の際立った性格の特徴の一つである我儘で依存性が強く、自己中心的、消極性、無気力、自立性の欠如などをもたらす原因である生活体験の貧困さを立証するため、児童の生活習慣、生活技能、家事労働についてアンケート調査を実施したので報告します。

研究対象は秋田県、由利地方の中学2年生576名、農村部3町、5校266名、都市部1市、1校310名に学級担任を通してアンケート調査を実施した。アンケートの質問は、脱いだ服をたたむか、つるすなど「自分でやるべきこと」と、風呂を沸かすなど家事労働への参加をまぜて計十項目について「いつもする」「時々する」「全然しない」のどれにあたるか書かせた。中学2年生を特に選定した理由は、身近の自立習慣が完成する年齢でもあり、家庭生活、家事労働に対する意識の確立する年代でもあるからである。

各項目の結果はグラフの通りであるが「朝一人で起きるか」は地域別に有意差はなく、性別では女子が55%と有意に高率を示す。脱いだ服の処理については、地域別に有意差はなく、性別では女子が有意に高かった。自分の部屋の清掃については、地域差はなく性別では「いつもする」が女子58%と有意に高率で「気がむけばする」が男子55%と有意に高率を示す。自分の身の回りの世話について、母親と答えたものが農村部55.4%、街部62.8%、男子58.8%、女子59.5%と何れも有意差はなく、祖母と答えたものが農村部16.2%、街部6.5%と有意に高率であった。家事労働への参加をみても、食事の後

始末では、「自分の役割としている」が、地域別では、農村部が32%、性別では女子が37%と有意に高率を示し、「ほとんどしない」が地域別では差がなく性別では男子57%と有意に高率を示す。自分の部屋以外の掃除は「いつもする」が地域差はなく、性別では女子16%、男子9%と女子が有意に高く、「気がむけばする」は農村部で62%と高率を示し、性別では女子が64%と高率であり、「殆どしない」については市街地、男子が有意に高率を示す。

以上、生活習慣、生活態度、家事労働について調査した結果、地域別では農村部が性別では女子が良好な成績を示した。私共の調査地域は市街地といっても農村地域の中心部といった所で純粋な意味で、都鄙の比較とはならないので関西地方の大都市の調査報告(図5,6)と比較してみた。図3,4と比べてみると、「脱いだ服をたたむ」では、女子では都市と農村と似かよった割合である半面、男子では農村の6割近い数値に比べ都市では4割程度と全体に男子のズボラぶりが目につく。家事労働の参加についても都市では「風呂を沸かす」項目以外はすべて我々の調査より悪く、都会の中学生のほぼ半数は、家事労働に全く参加していない。昨年注目されている思春期の心身症も乳幼児期からの生活上の躰、教育、家庭、学校環境が大いに関与すると言われているが、性格的には優柔不断で利己的で自分の都合の良い時は自分を主張し、自分に都合が悪くなると責任を転嫁する傾向で、他人への依存度も高いと言われている。心身症は、多彩な身体症状を呈するが子ども時代から両親の過保護で良い子として育てられた結果、独立が要求される時、自主性の欠如が著明で過去にとらわれ、自我の成熟がおくることが多く、

人生の不安から、退行現象や大人化現象がみられる。これ等のことは、対人関係や生活上の心理的葛藤、食行動、性行動に対する耐性の欠如、生活リズムの乱れに起因するとみられているが、すべて乳幼児期の生活習慣の確立と密接な関連性をもち、又家事労働に対する認識と深い関係を有するとも言われている。学童が家の中で客

人扱いをされ、母親に傳かれていることは都鄙の差はないが、農村においてはいまだ公序良俗が生きていて、大家族性のいい所が生きていると思われる。家事労働においては大都市の男子生徒が最もズボラで、受験戦争真只中の戦士と化しているのか、下宿人といった様相を呈している。

図 1 「自分でやるべきこと」を自分でしているか

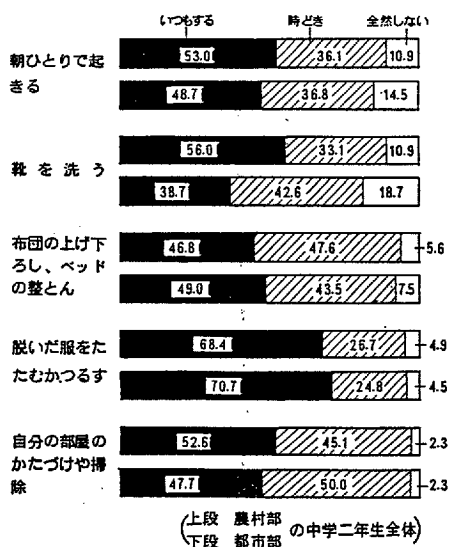


図 2 「家事労働」にどれほど参加しているか

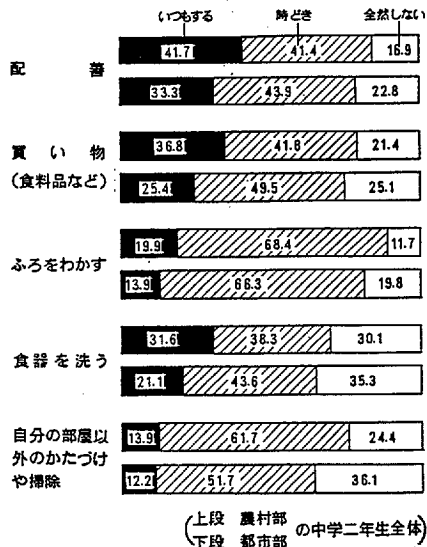


図 3 「自分でやるべきこと」を自分でしているか

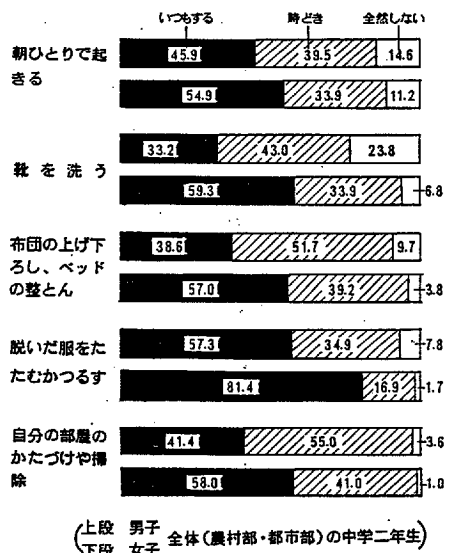
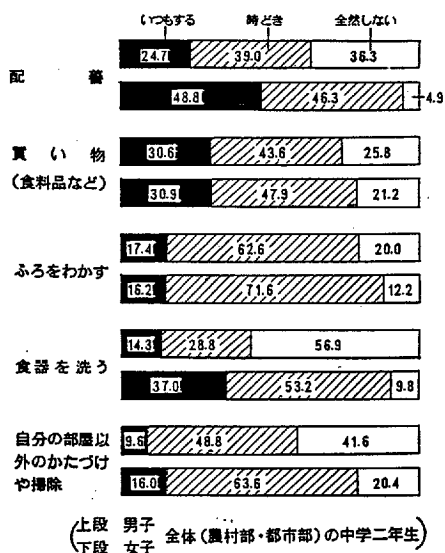


図 4 「家事労働」にどれほど参加しているか





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



私共は、農村の都市化、近代化が農山村小児の生活環境を根底より変革した事実を指摘し、その影響による小児心身の発育、発達に対する歪みについて調査研究をしてきました。今回私共は現代小児の際立った性格の特徴の一つである我儘で依存性が強く、自己中心的、消極性、無気力、自立性の欠如などをもたらす原因である生活体験の貧困さを立証するため、児童の生活習慣、生活技能、家事労働についてアンケート調査を実施したので報告します。